

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産費 項：林業費 目：県産材流通対策費

事業名 エネルギーの森実証支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林經營課 木質バイオマス産業係 電話番号：058-272-1111(内4390)

E-mail : c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 20,176 千円 (前年度予算額： 15,726 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳								
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 収 入	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 財 源
前年度	15,726	15,000	0	0	0	0	0	0	0	726
要求額	20,176	20,000	0	0	0	0	0	0	0	176
決定額										

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

住宅着工戸数が今後減少していく見通しの中、「木材のカスケード利用」のみならず、今後のわが国の木材需要の見通し（再生可能エネルギー用途の増加や建築用途の減少）に応じた、燃料材主体でも収益が期待できる多様な森林づくりが必要である。

(2) 事業内容

エネルギーの森に適した樹種の選定や施業体系の構築のため、エネルギーの森整備等の実証に取り組む森林組合や民間事業者等に対し、その整備費用及び試験研究にかかる経費の一部を助成する。

エネルギーの森整備の事例等を普及するための研修を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

【補助率】 10/10

1提案あたり上限5,000千円

(4) 類似事業の有無

有 【類似事業】 木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業（NEDO公募型事業）のうち、新たな燃料ポテンシャル（早生樹等）を開拓・利用可能とする”エネルギーの森”実証事業

予算要求事業は、木質バイオマスの中でも、①針葉樹、②広葉樹は植生が大きく異なること、中でも県内の広葉樹の植生は、照葉樹林帯から落葉樹林帯まで存在していることから、地域事情及び地域の気候に適した植林・育林・伐採・搬出方法の実証を行う。

類似事業は、早生樹等の活用拡大に向け、育林に適した樹木を選定の上、日本の気候区分6つ（亜寒帯（北部及び南部）、温帯東日本（日本海側及び太平洋側）、温帯西日本、内陸性気候）毎に選定し、実証を行うこととしている。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	0	研修会講師報償費
旅費	121	打合せ業務旅費
需用費	50	資料コピー代、事務用品
役務費	5	切手、郵送代
使用料	0	研修会場使用料、高速道路料金
補助金	20,000	5,000千円/提案×4提案
合計	20,176	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画（令和4～8年度）

（C材、D材の搬出促進）

(2) 後年度の財政負担

財源は国庫補助（みどりの食料システム戦略推進交付金のうち地域循環型エネルギーシステム構築）であるが、継続的に必要。

(3) 事業主体及びその妥当性

岐阜県内に事業所を有する木材搬出・集荷事業者、木質バイオマス発電事業者、森林所有者、その他知事が認める者。

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 繼続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

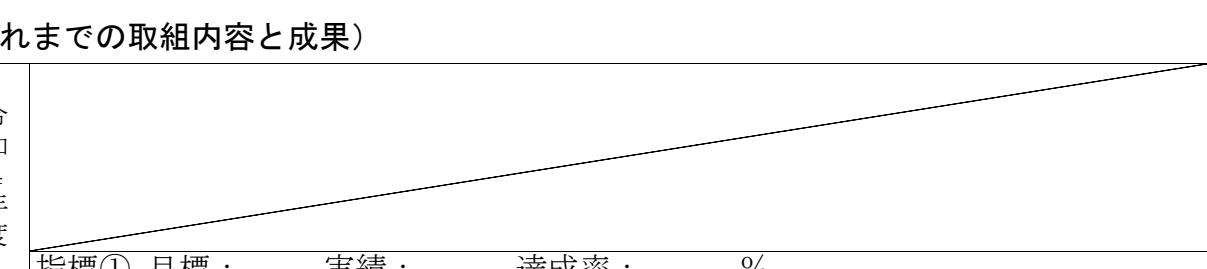
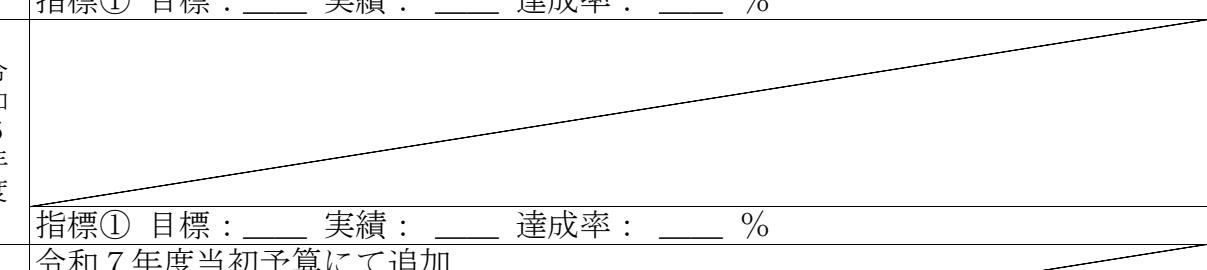
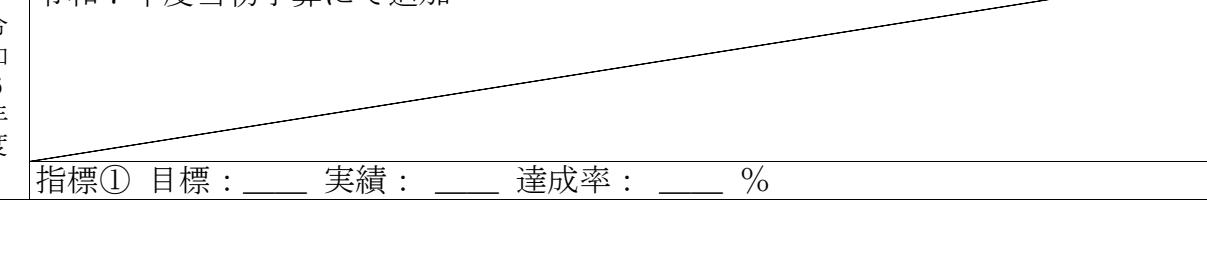
- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・従来の施業体系に捉われないエネルギーの森の経営を行う森林所有者等の増加。
- ・燃料林の造成を行う林業事業体及び燃料林材の搬出利用を行う木質バイオマス事業者の増加。
- ・木質バイオマス利用施設への燃料林材の安定供給。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R2)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①木質バイオマス利用量(燃料用)	128	197	208	250	250	102%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	
指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %	
令和5年度	
指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %	
令和6年度	
指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	エネルギー自給率の向上、地球温暖化防止への対応として、再生可能エネルギーの一つである木質バイオマスエネルギーに対する期待が高まっており、事業の必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない
(評価)	

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)	
------	--

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

燃料材を安定的に供給する体制を構築するため、伐採・搬出の作業システムや流通システムにとどまらず、エネルギーの森づくりを県内各地域の担い手に普及拡大する必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

木質バイオマスの利用は、環境への貢献のならず、地域経済への波及効果もあり、地域振興にも大きく貢献していることから、引き続き本事業を実施する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	